

第1回鯨漁場座談会

誌名	水産海洋研究会報
ISSN	03889149
巻/号	2
掲載ページ	p. 1-4
発行年月	1963年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



1. 第 1 回 鯨 漁 場 座 談 会

水産海洋研究会 共催
鯨 類 研 究 所

日 時 昭和 37 年 6 月 15 日 午後 1 時 30 分 ~ 6 時

場 所 東京水産大学大会議室

司 会 奈 須 敬 二 (鯨 研)

開 会 挨 拶 宇 田 道 隆 (水 大)

話 題 提 供 者

鯨 漁 場 経 験 談 (1)

蓮 井 滋 (大 洋 漁 業)

オ 16 次 南 氷 洋 捕 鯨 (昭 和 36 / 37 年 度) に お け る 漁 況 の 特 徴 は、ヒゲ鯨の解禁日が早くなったに拘らず(解禁日、昭和 35 / 36 年 度 12 月 28 日、昭和 36 / 37 年 度 12 月 12 日)、80 度 附 近 に お い て 漁 期 初 期 か ら 好 漁 が 続 いた 事 は、漁 場 の 熟 す る の が 早 かつ た と 考 え ら れ る。な お、オ 15 次 に お け る 同 漁 場 の 漁 況 は、2 月 末 で 殆 ど 終 漁 と な っ た が、オ 16 次 で は 逆 に 好 漁 と な っ た。

研 究 者 兎 次 の 諸 点 に つ い て の 解 析 を 希 望 す る。

- 以 前 パ ッ ク 寄 り の 高 緯 度 に 形 成 さ れ て い た 捕 鯨 漁 場 が、近 年 低 緯 度 に 形 成 さ れ て い る 事 実 に 対 す る 海 洋 学 的 解 釈。
- オ 16 次 南 鯨 に お い て、胃 内 容 物 の 少 な い 鯨 体 の 多 かつ た 事。
- プ ラ ン ク ト ン の パ ッ チ と 漁 場 の 関 連 性。
- 海 鷹 丸 の 資 料 か ら み た、D.S.L. と 鯨 漁 場 の 関 連 性

- 海洋観測資料の整理方法とその解釈の方法。
- 漁況予測の方法。

鯨漁場経験談(2)

飯田 陸之助 (極洋捕鯨)

小笠原諸島附近および北洋の一部における鯨漁場について考察すると、概して水深の傾斜が大きい所が好漁場となっている。これは海底地形による湧昇流に起因しているものと考えられる。なお、三陸、北海道沖の漁場において、概して鯨の分布域は決っているが、その原因についての解析をして欲しい。

南氷洋におけるパック・ラインの時期的変動が、等深線と関係がある。これはパック・アイスの溶解の原因を気温以外に求め得ることを示している。

以上を総合すると、漁場探索の一方法として、海底地形が重要な意義をもつて来る。

鯨漁場経験談(3)

広田 拓治 (宝幸水産)

ある外国船団は、暴風圏以南からパック・ラインまで、可成り沖合の海域を東西方向に移動し、主として東経漁場を重点的に操業している様である。

船団には漁撈課はなく、漁場撰定はあく迄多年の経験が、基礎となって母船の船長と指導砲手 (Leading gunner) によってなされ、探鯨船は全然活用されていない。

なお、特別の好漁を除いて、日曜は休日となっている (但し捕鯨船を除く)、

操業に関し、全体的にみて学ぶ点はない。

鯨漁場経験談(4)

佐々木 敬 二 (大洋漁業)

操業海域で得られた、水温資料の立体的解析の方法を指導して欲しい。またその資料から漁場の判断をより正しくするには、如何なる方法が考えられるか。

鯨漁場経験談(5)

小副川 十 郎 (日本水産)

オ 16 次南氷洋捕鯨におけるヒゲ鯨の操業は、 $57^{\circ}\text{S}, 57^{\circ} - 57^{\circ}30'\text{E}$ で開始した。 $70^{\circ} \sim 83^{\circ}\text{E}$ には顕著な冷水塊の北上、そして $83^{\circ} \sim 90^{\circ}\text{E}$ には暖水塊の南下が観測された。 90°E 以東には、再び大規模な冷水域があり、操業は行なわれなかった。

なお、ヒゲ鯨の漁場は水温と密接な関連があると考えられ、その資料と処理鯨体の胃内容物の資料を平行して調査する事は有意義である。

水温観測は、状況に応じて、その観測間隔を密にし、水深 10 m 層の資料を用いている。

気象関係 (別に掲載)

馬場邦彦 (日本水産)

山本春生 (大洋漁業)

0°~90°E の範囲における気象状況を天気図よりみると、80°E 附近では、15次および16次ともに良かったが、西方海域においては、15次より16次の方が悪かった。

太陽活動から判断して、来年あたりより気象状態は良くなるのではないか。

高沢孝夫 (極洋捕鯨)

南極洋における気象は、太陽黒点の消長と関連づけて調らべる必要あり、1961年昭和基地 (40°E) 附近での気温は例年より4~5° から7°C^{*}程度の異常高温を示したが、その原因を究明する事が今後課題の一つとしてあげられる。

なお、夏季における気象の予報は、春先きの成層圏の状況を把握する事が重要である。

(*奈須庄 Nature)

ヒゲ鯨の餌料 (別に寄稿予定)

根本敬久 (鯨研)

南極洋の一般海況 (別に寄稿予定)

石野誠 (東京水産大)

(奈須敬二記)